



1 生活のようす

太陽光発電などの**再生可能エネルギー***や**燃料電池***、**ヒートポンプ***などのエネルギー活用技術の進展により、家庭で使用するエネルギーの多くは、これらによりまかなえるようになっている。

家庭で使用する機器は、すべて省エネルギー機器になっており、さらに省エネルギーを意識した行動によって、エネルギーの使用が限りなく少なくなっている。

市民は、安全・安心な商品を提供している商店から、野菜、惣菜、鮮魚、精肉などの日常の食料品を、自分の容器や買い物袋を持参して購入している。また、地産の農産物を購入・消費している。

市民は、**グリーン購入***法の基準を満たす商品等、**環境配慮商品***を優先的に購入している。

市民は、化学物質等の環境リスクについて必要な知識を身に付け、適切に対応している。

「小江戸川越」が生活面でも注目され、循環型社会のモデルとされる江戸時代の知恵に習って、ものは大事に長く使い、フリーマーケットや古着販売を活用し、不要になると**リユース***・**リサイクル***して、ほとんどごみにならなくなっている。

川越市民は、誰よりも「もったいない」の言葉の深さを知っている。

2 自然のようす

川や水路はきれいになり、市民が水辺で遊んでいる。

田んぼや畑などの農地では環境にやさしい農業が営まれ、農家が市民と一緒に活動している。

武蔵野の面影を残す**雑木林***は、市民の森や（仮称）川越市森林公園のような自然を生かした緑地として保全され、憩いの森として親しまれている。これらを、市民や事業者が行政とともに維持管理している。

これらの場所では、多様な生き物が生息している。

3 まちのようす

川越駅、本川越駅、川越市駅の3駅から蔵造りゾーン、本丸御殿ゾーン、喜多院ゾーンでは、安全な歩行空間が整備され、市民や観光客が安心して歩いている。また、市内の各地を自転車で安全に移動している。

自動車はすべて環境性能に優れたものとなっており、運転者はエコドライブ*を実践している。

自動車の排出ガスが少なくなることにより空気がきれいになり、富士山がよく見えている。

脇道に入れば、道ばたの草花や家庭菜園、緑のカーテンなど、市内のいたるところで緑に出会うことができる。

緑あふれる美しいまちを吹き抜ける風は、市民に涼をもたらす。

川越は、自然・歴史・文化を大切にし、環境にやさしいまちづくりが進められた「環境先進都市」として、たくさんの観光客が国内外から訪れる日本を代表する観光都市になっている。

歴史的な町並みに学び、市内各所でまちづくりのルールが作られ、地域色が豊かで美しい景観が作られつつある。

このような快適な環境によって、まちが活気づいている。

4 市民活動のようす

市内の各所でクリーン活動が行われ、ごみが落ちていない。

市民、事業者、民間団体等が、あちこちで環境保全のための活動を行っている。

市内の学校では環境学習の時間が設けられ、家族やグループでは環境のことがよく話し合われている。

あらゆる環境に対する取組や、その経験が情報システムを活用して共有され、市民、事業者、民間団体、行政、そして学校等との協働によって、環境を良くする活動が活発に行われている。

このように、将来の川越では、持続可能な社会に向けた歩みを続けている。